

| 6年 | 課題（現状、傾向、課題分析） | 改善プラン（改善のための具体策や取り組み） | 成果と課題 |
|----|--|---|-------|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> 語彙が少なく、言葉の意味を正確に理解できていない場合があること。 友達の意見を聞いて、自身の考えを広げたり、深めたりする力を向上させること。 文章を書く力の個人差を小さくしていくこと。 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書の本文の意味の分からない言葉について、サイドラインを引かせ、意味の確認をさせ、語彙力を高めていく。 自分の考えとの共通点や、相違点に着目して友達の考えを聞けるように視点を明確に示して活動させる。 文章構成を意識させながら、書くよう指導する。国語の時間だけでなく、どの学習でも書く機会を多く設定する。 | |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none"> 社会的事象の意味を考え、自分の分かったことを整理してまとめて書くこと。 歴史背景や登場人物の関係性について、知識を十分に定着させること。 | <ul style="list-style-type: none"> 学習問題を振り返り、授業の重点的な内容はどこかを捉えさせ、まとめる観点を助言する。 時代背景を確認し、相関関係から理解を促すことで、人物に関する知識などの定着ができるように工夫する。 | |
| 算数 | <ul style="list-style-type: none"> 問題に対して、多様な考え方で答えを導くこと。 自分の考えを分かりやすく伝えること。 四則計算等の知識・技能を確実に定着させ個人差を小さくしていくこと。 | <ul style="list-style-type: none"> 児童の考え方を共有する際、式だけではなく、図や言葉を取り入れた児童の説明を意図的に取り上げ、考えを深められるような指導を行う。 発表の場を多く作り、考えを説明する言葉を具体的に指導する。 チャレンジタイムを活用し、計算の基礎・基本に取り組みさせる。 | |
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> 条件制御を念頭に置いた実験の準備やノート作りに取り組むこと。 実験後の結果について検証する場面では、実験過程と既習事項を結び付けて考えノートに記述できるようにすること。 正しく扱う技能を身に付けていない段階で、実験器具を扱っていること。 | <ul style="list-style-type: none"> 実験のノート作りでは学習課題からまとめまでの一連を見開きで書かせ、自然事象の移り変わりが視覚的に捉えられるようにする。 実験後の結果や考察時には、予想と比較させ、どのような原因や何と結びついているのかを考えさせる指導を行う。 指導計画を見直す際、実験器具の扱い方を十分に理解できる時間枠を確保すると共に、社会状況により、半数の人数で実験ができるよう、他教科との兼ね合いを考慮して計画を立案する。 | |
| 音楽 | <ul style="list-style-type: none"> 歌唱表現については意欲的な児童と歌うことに恥ずかしさを感じる児童の差を小さくしていくこと。 曲想とその変化を感じ取ったり、音楽を形作っている要素との関わり合いを感じ取ったりして、楽曲全体の構造に気を付けて聴くこと。 | <ul style="list-style-type: none"> 声変わりなど身体的な成長については全体と個別指導で励ましつつ、歌詞や旋律・記号などに込められた意味を読み取ったり、自分はどの表現したいかを考えたりすることで、楽曲により親しめるよう題材を設定する。 楽曲を特徴付けている旋律やリズムだけではなく、楽曲全体を味わって聴けるよう、楽曲の全体の流れを身体表現したり、曲全体をつかむワークシートにまとめたりするなど、視覚的にも理解しながら鑑賞する。 | |

| | | | |
|-----------|--|---|--|
| <p>図工</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・道具を自分が思ったように扱うことが苦手な児童はいるが、その児童の大半が積極的に教師に解決方法を尋ね解決に取り組むことができる実態であるため、引き続き教師と児童間の関係づくりを維持する必要がある。 ・仕上げの段階で、丁寧に作業をする、またはさらに1歩踏み込んだ工夫を加えること。 | <ul style="list-style-type: none"> ・互いの作品や様々な作家の作品を鑑賞する機会を設け、発想を幅が広がる場を設定つくる。 ・道具の扱いが苦手な児童でも扱いやすく可塑性の高い材料、または失敗してもやり直しがしやすい材料を使って題材を設定する。 ・互いの作品の工夫しているところや、こうした方がより良いという指摘など、感想を言い合える機会を設ける。教師の支援としては、個々に声掛けを行い、作品に対する思いを聞き取り、仕上げたいイメージを共有し、そのためにどうしていくかを引き出すような声掛けを行う。 | |
| <p>家庭</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・裁縫において、基本的な技能を活用して作品作りや課題解決すること。 ・調理器具や調理の手順を学習する際、生活経験と結び付けて考えたり、興味・関心をもって取り組んだりすること。 ・感染症拡大防止に伴い、未履修となっている調理実習などの学習内容を履修すること。 | <ul style="list-style-type: none"> ・感染症拡大防止に伴って、実習ができない学習については、ICT機器を活用し、切る・炒める・調理器具の扱い方などを視覚的に捉えさせたり、感染症拡大防止対策を講じた上で個々に実践したりして生活に活用できるようにする。 ・長期休業中を利用して家庭と連携し、調理実習などの未履修の学習が実践できるワークシートを作成する。 | |
| <p>体育</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自分のめあてを意識して、運動すること。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、運動する機会が減少している。体を動かすと、すぐに息が上がってしまう児童が多数見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさを伝え、個に応じた場の設定を行い、意欲的にめあてを達成できるように工夫していく。 ・感染症予防対策や熱中症予防対策をして、持久力向上が図れる活動を授業の導入時に取り入れる。 | |